
なんとなく短編書きたくなったから書いてみた。(前編)

神技

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なんとなく短編書きとなったから書いてみた。（前編）

【Nコード】

N31090

【作者名】

神技

【あらすじ】

異世界のそのまた異世界のさらにまた異世界の異世界の異世界の（ryの宇宙^{そら}の彼方に、地球1000個分と超巨大なその惑星^{ほし}が存在した。

超巨大惑星”ゼクスト”

この物語は、その惑星^{ほし}の1部分にある国に建つ地球5個分と巨大な大豪邸の1室から始まる…

(前書き)

……ん？

何か、短編書きたいな。
書こ。

？「しんちゃんの頭ジャック完了♪」

異世界のそのまた異世界のさらにまた異世界の異世界の異世界の
(ryの宇宙^{そら}の彼方に、地球1000個分と超巨大なその惑星^{ほし}が存在した。

超巨大惑星”ゼクスト”

この物語は、その惑星^{ほし}の1部分にある国に建つ地球5個分と巨大な
大豪邸の1室から始まる…

〔豪邸内最上階寝室前廊下〕

ふふふ♪

現在時刻6時59分♪

いつも通りゆーくんを起こそうと思います♪

ゆーくんは誰？

あたしの名前は？

それは後でね♪

「それでは♪這^{はい}入りまーす♪」

カチャ… キイイ…

「ゆーくん♪朝よー♪」

ジャキツ… ——— ツツカアアアアアアアアア

アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアオオオオオオオオ……ン……

即早朝”核”バズーカでゆうくんを爆撃♪
もちろん♪ゆうくんの部屋は吹き飛んで…ない？

「……あら？」

何でかしら？

いつも通りやってるのに…

「こつちだ」

「え？」

ナレーターを勤めさせてもらうナレーターX、略してナレックスだ。

突然ですまないが、一旦視点を換えさせてもらう。

突然女の背後から声が聞こえたので、女が後ろを振り向く。
すると…

「……毎朝毎朝毎朝毎朝お前の爆撃で部屋ごとぶっ飛ばされて瓦礫の下敷きになった挙句、生死を彷徨いながら起きるお前の主はこつちだああああー!!」

女の主だという男が怒りながら光速で殴り掛かってきた。

「危ない危ない♪」

なので、女も光速で背中 of 巨大な剣を抜いて対抗する。
しばらく力で押し合い…

「次やったら容赦しねえからな…」

と、痺れを切らした男は女を睨みながらそう吐き捨てて消えた。
文字通り、消えた。

男は黒い霧になってその場から消えた。

「挑むところよ」
のぞ

と、残された女は消えていった黒い霧に向かって挑発的にそう言い、窓から下へと飛び降りていった。

もちろん、着地時に地面には深く巨大なクレーターができた。
だが、女は無傷で、何事も無かったかのように食堂へと向かって行った。

「豪邸内1階食堂内厨房」

「さっ」

さつきは動揺しちゃったけど、落ち着いてきたから視点を戻して、
みんなのご飯を作りながらだけど自己紹介をしたいと思います」

あたしは陽子^{ひつみ}

あす
明日陽子よ

明日に昇る太陽の様な子で明日陽子よ

簡単でしょ？

あ、年齢と体重とスリーサイズ等は秘密よ
プライバシー
個人情報だもの

「できた♪」

みんなお腹空かせてるから急がなくっちゃ♪

く食堂く

「お待たせー♪」

ナレックスだ。

また突然で悪いがまた視点を変えさせてもらう。
料理を持った陽子が小走りでみんなの所へ向かい、テーブルに料理を置いていく。

「……お腹空いた」

「ごめんねしのちゃん♪」

少し長めのテーブルの左端に座っているこの前髪で若干顔が見えにくい黒髪黒目の少女はしするという名前である。

くく

「……／／／／／」

かなりの恥ずかしがり屋でかわいいヤツだ。

「いただきますさ」

「こーくん♪もう少し我慢できる?」

「できるさ」

「ふふふ♪いいこね♪」

しのの正面に座っている語尾に”さ”が付く灼髪灼眼で185cmというかなり高い身長の青年と思われる少し幼い口調の男は紅こうという名前である。

「陽子お…早くしてくれえ…腹減った…」

「はいはい♪ゆーくん今行きますよ♪」

しのと紅の反対側の右端の真ん中に座ってぐだぐだとしてる黒髪黒目で全身黒尽くめの真つ黒黒助なこの豪邸ゆうきの主の青年は遊鬼きという名前である。

今は”……さっきの戦闘で出していた溢れるほどの膨大な殺気は何だったんだろうか？”と思ってしまう程弱々しくなっている。

「お腹が空いて力が出ないっす…」

「そう♪食べる力も無いのね♪ 誰か読めるにご飯食べさせてあげて♪」

「俺パス」

「パスさ」

「……パス」

「みんなヒドイっす!!」

紅の隣の隣に座っている語尾に”っす”が付く銀縁メガネで細めな扱いがヒドイ青年は読めるという名前らしい。
変な名前である。

「やるよ」

「じゃあ♪お願いね♪」

そう言って読めるにご飯を食べさせるといふ何か嫌な仕事を請け負ったのは、紅髪の…道化師だった。

「……って何で某道化師のパクリキャラがこk…ガボツ!？」

「犯バー。ー四個分」

某道化師のパクリキャラが読めるの口に四個のハンバー。ーを詰め込む。

「げほげほ…」

それにより読めるは噎^むせてしまった。

「どう?アンディー!」

「ゴフォ!? うう…ガババババ…!??」

そこに某道化師の(パ^ryが読めるの顎にアッパーを決め、その衝撃で詰まったハンバー。ーを飲み込ませ、さらにコ。ラを流し込む。

「ノレー!」

「うわ…」

読めるが全て飲み込むのを確認した某道化師(r^yが今度はポ。トを投げ込む。

「はあ…はあ…はあ…」

なんとか全てのポ。トを食べ終えた読めるに…さらなる災難が襲い掛かるうとしていた。

ちやらん
ハッピー
。ツト

上部分が無い巨大なハンバー。ーやらポ。トやらドリン。やらがこれまた巨大なトレイに乗って聞き覚えありまくりなSEと共に某道化師の相棒的存在な女道化師のパクリキャラに押されてきた。

⌈
⋮
⌋

その光景を見た読めるは言葉を失い、ただ呆然と立ち尽くしていた。

「フツ」

「……わっ！？」

某道化（ry）が立ち尽くしていた読めるを上部分が無い巨大なハンバー。ーに寝かせる。

そして…

"H A H A H A : I m l o v e n i t !"

[illegible]

ズドゴオオオオオオオン！！

某道（ry）の膝をカッコンさせて右手を伸ばして指を差すという奇妙なポーズと台詞を合図に天から巨大なハンバー○ーの上半分が読める目掛け降ってきて、読めるをサンドした。

「ガクッ」

K・O・

「ドルドはね、嬉しくなるとっゝい殺^やっちゃうんだゝ　ラソラソノ
レー！」

ドルド・マルナド。

それが、彼の名前である。

くちなみにゝ

読めるがドルドに「ご飯を食べ」(K O)させられている頃…

「おいしいさゝ」

むしろパクもぐもぐ…

「……………／／」

もぐもぐ…

「ゝ」

もくもく…

「旨^{うめ}えー！ー」

パクもぐパクもぐゴクもぐガツガツゴクゴク…ひよいパクガツ

もぐバクもぐガツバクガツゴクガツガツガツガスバクハツガツ
ガツガツガツガツガツバクバクもぐもぐゴク…ひよいpガシッ

「……ん？」

「あゝたゝしのゝおゝかゝずゝかゝえゝしゝてゝ」

コゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ...

「……ごめんなさい」

The・DOGEZA

「よろしいゝ」

……一部を除き、いつも通り平和な食事をしていた。

ゝ食後、片付けやら洗濯やら掃除やら家事やら火事やらなんやらか
んやら色々終わらせて自由時間ゝ

陽子は”闘技場”にいた。

「さーてゝ今日も暴れちゃうぞーゝ」

あゝ忘れない内に視点戻そつとゝ

うんゝこれでいいわねゝ

「お願いねゝ」

たれ目がかわいいと評判の受付嬢にエントリーカードを渡して♪
エントリーカードは♪この闘技場に5回以上出場したら貰える出場
料が無料になるカードよ♪

と言っても♪最低でも2回戦は勝ち抜かなくちゃもらえないわ♪

「はい、現在9999連破の明日陽子様ですね。今回で優勝10
000連破達成ですので、頑張ってください。それでは、控え室で
お待ち下さい」

「はあい♪」

「控え室の待ち時間やら開会式やらオーケストラやら時間短縮の為
にぶっ飛ばして戦闘開始前」

ナレックスだ。

今度は突然ではなく、こちらに干渉してきた陽子に頼まれて視点を
変えさせてもらった。

……この女、戦闘中に何を考えているのか知られたくないみたいだ
な。

「何か言った？」

い、いや、何でもない。

兎に角、ここからはこのナレックスがナレーターを勤めさせてもら
う。

「そう♪がんばってね♪」

ああ。

……何故この真っ白な女もあの真っ黒な男もナレーターに干渉出来るんだ？

誰か教えてくれ！！

「いいわよ」

……遠慮する。

「そう」

と、そうこうしている内に司会者がフィールドに立ったようだ。

「どうもどうも」 歯科医者だよ 今日患者さんは数え切れなくらいたくさんいるね」

「え……」×観客数

……あんなに湧いていた会場が凍りついた。

「みゆ」 冗談だよ それでは始めるよ！！」

「わああああああああああああああああああああああああああああああ！！！！」

この一言により、司会者の悪ふざけで凍りついていた会場が再び湧いた。

……それにしてもあのキャラ、何処かで見たことがあるような気がしないでもないな。

「今日は先週で優勝9999連破を達成した明日陽子さんVS未来の王者に挑む猛者達の勝ち抜きバトルだよ 更に飛び入り参加も可能だよ」

闘いの火蓋が切って落とされた。

……どうでもいいが、あの司会者”それでは”が多いな。

（後書き）

次回に続きます。

……長くしすぎた（汗）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3109o/>

なんとなく短編書きたくなったから書いてみた。(前編)

2010年10月23日19時45分発行